

西 中 新 聞

発行所 西中学校部
 代 表 者 雄 秀
 黒 川 刷 所 印
 黒 印 小 路
 (株)

お、西中 わが母校 誇りみなぎるわれらの校歌

サトウハチロー 作詩
 渡 辺 浦 人 作曲

一、輝やき光る 校章に
 胸には誇りが みなぎるわれら
 のび行く竹の すなおさを
 仰いで教えを 守るはわれら
 お、西中 わが母校
 栄える 大多喜西中学校

二、大塚山の いただきに
 未来の誓いを たてるはわれら
 ひめはるぜみの なき声に
 心をはげまし 学ぶはわれら
 お、西中 わが母校
 栄える 大多喜西中学校

三、耳にひびく やまばとに
 合わせて口笛 鳴らすはわれら
 むらがり開く あぢさいに
 肩くみあわせて はずむはわれら
 お、西中 わが母校
 栄える 大多喜西中学校

四、夷隅の鯉の みごとに
 手を打ちたたえて 唄うはわれら
 自然に親しみ たくましく
 いつでもからだを きたえるわれら
 お、西中 わが母校
 栄える 大多喜西中学校

校歌について

「ボク等の校歌ができた。六年間費用づくり、廃品改修、ふき取りサトウさんも感激の詩」という見出しで新聞に発表された待望の校歌発表会は昭和四十七年三月十九日午前十時より体育館にて行なわれた。卒業式直後のこととて第七回の卒業生も大多数参加し、歴代の生徒会役員始め来賓、父兄多くの方々が列席され、作曲家の渡辺浦人先生、詩人の米津千之先生が東京からおいでになり、渡辺先生は作曲された立場より歌唱指導され、米津先生はサトウ先生の詩の内容についてお話しくださいました。梶原先生のお話によるとサト



ウ先生は生徒が自分達の労働によつて費用をつくり、校歌を作成しようとの情熱に感激され、竹、ひめはるぜみ、鯉、と郷土の香りを

入れ、めずらしく四番まで作詩してください。さうです。この校歌は入学式にも卒業式にも、体育祭その他の行事に歌われ後輩へうけつがれいっまでも歌いつがれることであろう。猪妻会の折ソノシート一千枚、楽譜三千枚を作成し全校生徒に配布し、できるだけ多くの方に知っていただくために各家庭にも配布した。唄は渡辺先生のお嬢さんで宝塚の早蕨萌子によつて歌われ、また先生のお弟子さんの小林蔵雄の手で行進曲に編曲され、アンサンブルジョリー演奏という恐らく校歌としては最高の豪華版である。体育祭の入場行進にこの行進曲がつかわれたことはいうまでもないが、バスの中で合唱されガイドさんからよい校歌とほめられることも多い。これをながくのこすため浅見喜舟先生に揮毫していただいた大きな額は校長室にかかげられてある。校歌は母校への郷愁、大人になっても同窓生が集まれば思わず歌い出されることであろう。